



「師走」～教師という仕事～

校長 嘉部 喜之



朝の白く染まる吐息に冬の訪れを感じる季節となり、12月「師走」を迎えました。僧（師）が年末の行事に忙しく駆け回ったことから「師走」という名がついたとも言われ、一年を締めくくる年末の慌ただしさを表す言葉としても用いられます。

学校はもうすぐ2学期末を迎ますが、南小の子どもたちは日々の生活を元気に過ごしています。子どもたちと共に確かな成長と歩みを振り返りつつ、新しい年へつなげてまいりたいと思います。

10月後半から約1ヶ月間、本校の卒業生を教育実習生として受け入れました。短い間でしたが、子どもたちと積極的に関わり、熱心に教育実習に臨んでいました。教育実習の最後に1ヶ月間の実習日誌を見せてもらいました。

この教育実習では非常に多くのことを学ばせていただいた。私はこれから授業力を身につけ、児童との関わり方や児童理解について、より考えを深めていきたい。

南山城小学校では児童も先生に対して敬意を持ち、同時に先生方も児童に対して敬意を持って関わっていらっしゃると感じた。今回させていただいた教育実習の経験を大切に、残りの大学生活も良い教師とは何か、どうなるためには何をしたらいいのかを考え、学び続けていきたい。

(教育実習生の記録簿より)

本校の教育目標

『たくましい体と豊かな心を持ち、意欲的に学ぶ子どもの育成』

～ふるさとを愛し 自分を大切に ひとを大切に～

近年、教師のなり手不足が深刻化していると言われます。「ブラック」と表現される勤務実態、複雑な課題への対応、心身の不調を訴える教員の増加など、教育現場における諸問題がたびたび報道されます。確かに、子どもを育てるという仕事は、体力的にも精神的にも簡単なものではありません。



しかし、それでも私は教師という仕事の魅力を後輩たちに伝えずにはいられません。子どもが新しいことを理解した瞬間の目の輝き。できなかったことができるようになる成長の喜び。友を思うやさしさにふれたときのぬくもり。こうした瞬間に立ち会えることは、何ものにも代えがたい教職の魅力です。未来を生きる子どもたちの日々の成長に関わることこそ、この仕事の誇りであると思います。

もちろん学校だけでは子どもは育ちません。家庭で支えていただき、地域で声をかけていただき、一緒に関わってくださる皆様がおられてこそです。「師走」は私たち教師にとっても忙しい季節ではありますが、子どもたちと共に1年間走り続けてこられたのは、何より保護者・地域の皆様の支えと後押しのおかげです。どうか最後まで、そして来たる新しい年でも、温かく私たちの歩みを応援していただければ幸いです。

「人権の花」贈呈式



11月10日(月)に人権の花贈呈式を行いました。今年は南山城保育園で行われ、3・4年生が参加しました。

人権擁護委員さんから水仙の球根を受け取り、保育園の子ども達と一緒に植えました。球根を植える際には、児童と園児が互いに寄り添いながら一緒に活動する姿が見られ、運動場は優しい気持ちで包まれていました。春には綺麗な花を咲かせてくれることでしょう。

1・2年生 おいもほり



1・2年生が春に植えたサツマイモの収穫を行いました。

土を丁寧に掘っていくと、サツマイモがどっさり。サツマイモが見つかるたびに歓声があがっていました。

このサツマイモは「おいもパーティー」を開いてスイートポテトにしていただきました。実りの秋を実感した学習になりました。

5・6年生陸上運動交歓記録会



11月11日(火)にロートフィールド奈良にて和束小学校、笠置小学校との陸上運動交歓記録会が行われました。

立派な競技場に、子ども達はやる気アップ！どの競技にも全力で取り組みました。そこには、自分の記録と向き合う姿、友達の記録に感心したり、応援したりする姿などが見られました。交流運動でも3校の子ども達が話し合い、楽しそうに取り組む姿も見られました。

陸上競技を通し、子ども達の心の成長も見られた1日でした。